

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 5 年 6 月 16 日

秋 田 県 知 事

提 出 者

住 所 秋田県にかほ市象潟町長岡字向エ21番地

氏 名 森建設工業株式会社

代表取締役 森 純

電話番号 0184-44-2311

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	森建設工業株式会社
事業場の所在地	秋田県にかほ市象潟町長岡字向エ21番地
計画期間	令和 5 年 4 月 1 日 ~ 令和 6 年 3 月 31 日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	建設業
②事業の規模	650,000千円
③従業員数	31人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	がれき類 → 再生処理業者に委託し骨材として再資源化 廃プラスチック類 → 再生処理業者に委託し原料、燃料として再資源化 木くず → 再生処理業者に委託し原料として再資源化 紙くず → 再生処理業者に委託し燃料として再資源化または焼却 混合廃棄物<安定型のみ> → 最終処分場へ埋立

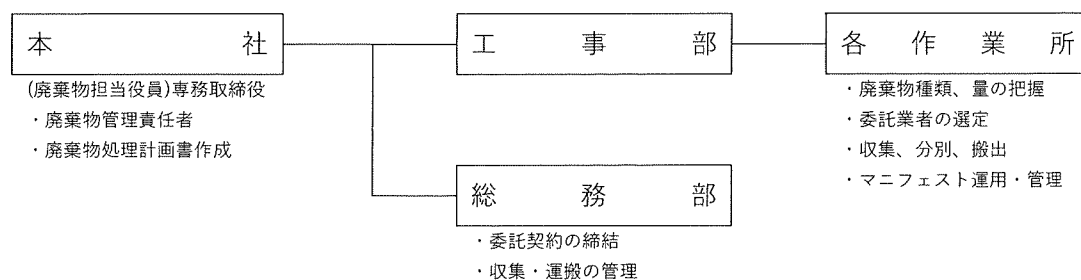
(日本工業規格 A 列 4 番)



(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙①のとおり	
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙①のとおり	
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) コンクリートがら、アスコンがら、ガラス・陶磁器くず、金属くず 廃プラスチック類、紙くず、木くず 廃棄物毎に集積場所を確保し、廃棄物名を明示。
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 手作業による分別を行い、混合廃棄物を削減する。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	（これまでに実施した取組） —		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	（今後実施する予定の取組） —		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
	（これまでに実施した取組） —		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
	（今後実施する予定の取組） —		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	（これまでに実施した取組） —		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	（今後実施する予定の取組） —		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙② のとおり	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	（これまでに実施した取組）		

② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙② のとおり	
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙 ①

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和 4 年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	がれき類	廃プラスチック類	混合廃棄物 《安定型》	紙くず	木くず	合計
	排出量	1,047.65 t	8.19 t	0.26 t	0.27 t	190.13 t	1,246.50 t
	（これまでに実施した取組） 端材が極力発生しないよう製品の発注、加工計画を立案。						
② 計画	【目標】 令和 5 年度						
	産業廃棄物の種類	がれき類	廃プラスチック類	混合廃棄物 《安定型》	紙くず	木くず	合計
	排出量	1,000.00 t	5.00 t	0.20 t	0.20 t	150.00 t	1,155.40 t
	（今後実施する予定の取組） 産業廃棄物の発生抑制を考慮した工法、資材を採用。						

別紙 ②

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（ 令和 4 年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	がれき類	廃プラスチック類	混合廃棄物 ≪安定型≫	紙くず	木くず	合計
	全処理委託量	1,047.65 t	8.19 t	0.26 t	0.27 t	190.13 t	1,246.50 t
	優良認定処理業者 への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	再生利用業者 への処理委託量	1,047.65 t	8.19 t	0 t	0 t	190.13 t	1,246.50 t
	認定熱回収業者 への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)						
	再資源化可能な業者を選定するとともに、書面による委託契約を締結。						
	② 計画	【目標】 令和 5 年度					
産業廃棄物の種類		がれき類	廃プラスチック類	混合廃棄物 ≪安定型≫	紙くず	木くず	合計
全処理委託量		1,000.00 t	5.00 t	0.20 t	0.20 t	150.00 t	1,155.40 t
優良認定処理業者 への処理委託量		0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
再生利用業者 への処理委託量		1,000.00 t	5.00 t	0.20 t	0.20 t	150.00 t	1,155.40 t
認定熱回収業者 への処理委託量		0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者		0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組)							
再生利用、熱回収可能な業者に委託するとともに、定期的に現地確認するよう努める。 可能な限り優良認定処理業者を選定する。							